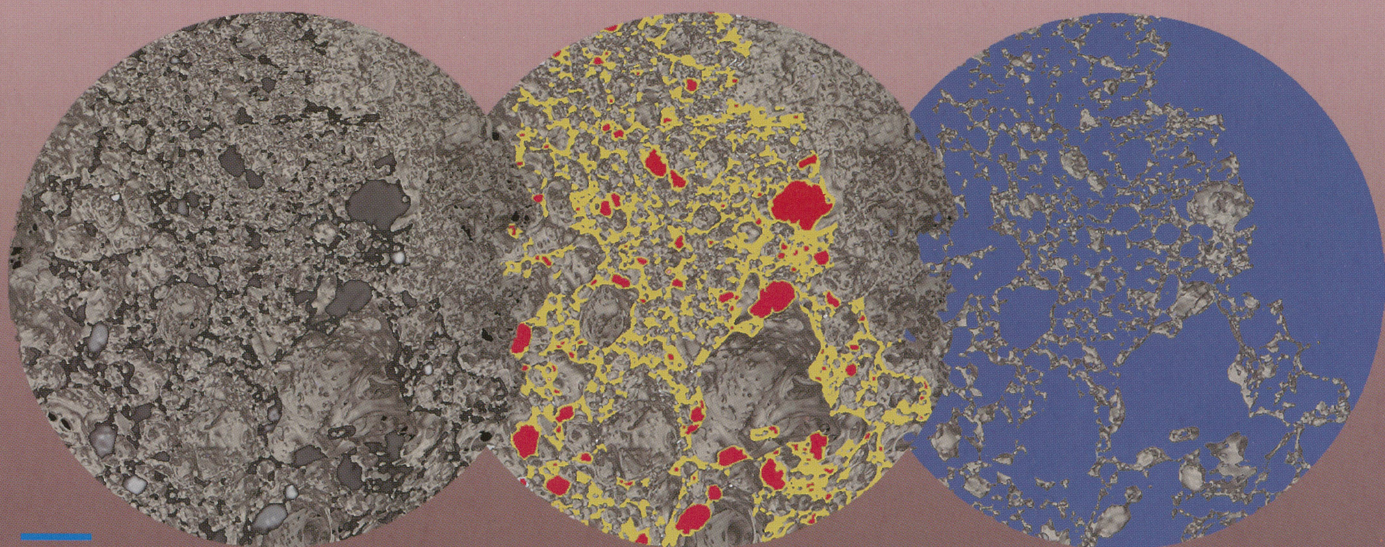


mnividens

【オムニヴィデンス】



生まれたてのスコリア

阿蘇火山中岳は10～20年ごとに噴火してきました。最近では2016年10月8日未明に噴火、噴煙が高度1万1千mに達し四国でも降灰が観測されています。噴火により空中に放出されたマグマは急速に冷却・固化し、左写真のような黒褐色のスコリア（岩滓）になります。内部は発泡し、黒色のガラス光沢を呈します（スケール2 cm）。

上図は、X線CT像から画像化したスコリアの断面（左）、そのうちの内包される岩片と鉱物（中・黄～赤）、気泡（右・青）です（スケール2 mm）。スコリア内部には気泡が連結することで、ガスが抜ける通路ができています。マグマの粘度が小さいと、このようにガスが抜けやすくなり、爆発性は低くなります。

（噴火写真提供：産業技術総合研究所・下司信夫、試料提供：京都大学防災研究所・横尾亮彦）

2017.11

NO.

55